

# ホーチミン市の保育実態と今後の課題に関する一考察

長谷部 和 子

## I、目的

ベトナムといえば一般的に発展途上国のイメージが強く教育、特に幼児教育に対する理解は少ない様に考えられている。しかし、教育に関してはこの10年の間に著しく発展を遂げ、それぞれの省で教育部が教育費にあてているのは全体の省の約1割(1997年)である。2000年には15%を目指した。その教育費用全体うちの中の約40%を幼稚園の予算にあて、<sup>(1)</sup>一般家庭においても幼児教育・初等・中等教育にあてる予算は多く、国全体が子どもに期待する様子が窺える。

このような子どもに期待する傾向は幼児を持つ若い夫婦に強い影響を与え、子どもに使う費用は1家族全体の収入のかなり部分を占める。特に1986年に提唱され、90年代に発展したドイ・モイ(開放)政策の結果出現した若い富裕層の子どもに対する期待は幼児や幼児教育に様々な形で現れている。

ベトナムは一般的に北部の首都、ハノイ市と南の商業都市、ホーチミン市とに、あらゆる個所で分けて考えられている。

2002年の教育部訓練局にはホーチミン市中心部に公立幼稚園22園、私立が28園登録されている。1997年に教育改革が發布され、それまで、正式に許可されたのは公立だけであったのが、私立の幼稚園、専門学校、大学などを設立されることが奨励されるようになり、雨後の竹の子のように数多くの幼稚園が設立された。そのため無認可幼稚園の数も多く、正確な数は教育訓練局さえ把握しきれていない。

登録されている私立幼稚園の保育内容は公立幼稚園に準ずるかたちとなっている。

ホーチミンの親が考えている子どもへの良い教育とは何か、幼稚園の中で行なわれている内容を紹介し、現在日本などの文明国が抱

えている問題点を検証する。

ホーチミン市内の若い富裕層が自分たちの子どもを是非入園させたいと考えるホーチミン市内の「ホア・マイ」幼稚園を軸にその他の幼稚園を比較・検証し今後考えられる問題点について考察する。

## II. ベトナムの幼児教育のシステム

資料2に示されているように、3~4ヵ月から3歳まで預けられるのがKindergartenで、3歳から6歳まで預けられるのが、Senior Kindergartenと言われ、保育園とか幼稚園という名称で区別はされず、一般的にKindergartenといわれている。一般的に3ヵ月~4ヵ月ごろまでは子どもは家庭で面倒を見るが、夫婦共稼ぎが多くなっている昨今では人件費が安いためにベビーシッターを頼む夫婦も増えている。2003年には日本人の園長による幼稚園も開設されている。また、私立幼稚園の中にはインターナショナルスクールも含まれている。

ベトナムのEducational Training Departmentもベトナム語から英語に翻訳されたもので、これを日本語に訳した場合、日本の外務省によれば教育省訓練局幼稚部となり、研究者によっては単に教育省と翻訳している場合もある。その教育省訓練局によれば、資料として残っている幼稚園の園児数である。

### 資料1

1995年	105,619人
1996年	111,342人
1997年	資料なし
1998年	資料なし
1999年	126,916人
2000年	128,809人

2001 年 123,998 人

2002 年 127,122 人

この資料 1 から判るように 1997 年と 1998 年は記録として残されていなかった。ホーチミン市全体の年代別の人口統計は出されているがその中の未就学児全体の数字ははっきりと記録されていない。しかし、幼稚園に通える子どもは恵まれている家庭の子どもが多く、幼稚園に通える園児数は数字としても残っているが、それ以外の子どもの数もかなり多いものと予測される。以前のようにホーチミン市内を歩いていてもストリートチルドレンは全くといっても良いほど目にはしない。これは政府の指示で観光地の取締りが行き届くようになったからである。ホーチミン市内でも少し中心部から離れると物乞いの子どもや物売りの子どもが現れることもあり、まだ市全体に教育が行き届いているとはいえない現状である。

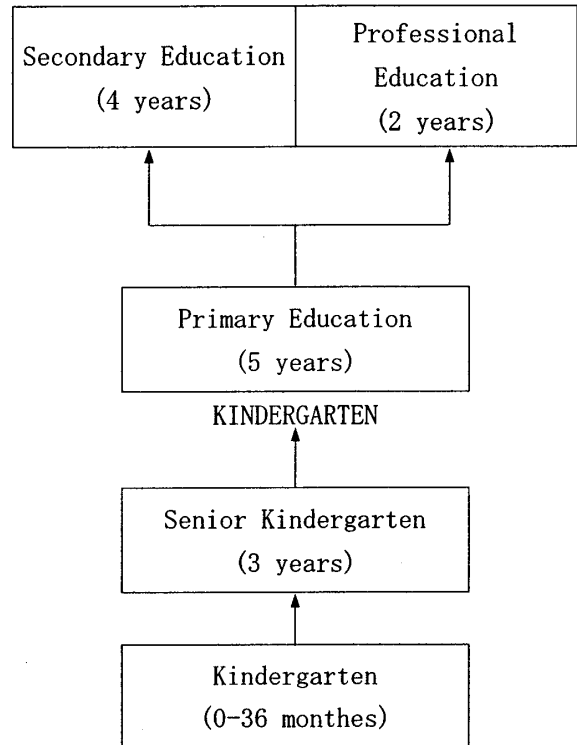
ベトナムの教育としては資料 2 に示されているように幼稚園は Kindergarten と Senior Kindergarten の 2 つに分けられ、その後、小学校に 5 年間在籍し、中学校は普通教育の 4 年間と職業訓練を主とした 2 年間に進む。

識字教育に力を入れた結果、全国民の 95% は字が読めるようになったと言われるが、小学校だけを終了した人々でもっと教育をと望む人々に対しての社会人教育は熱心に行われている。

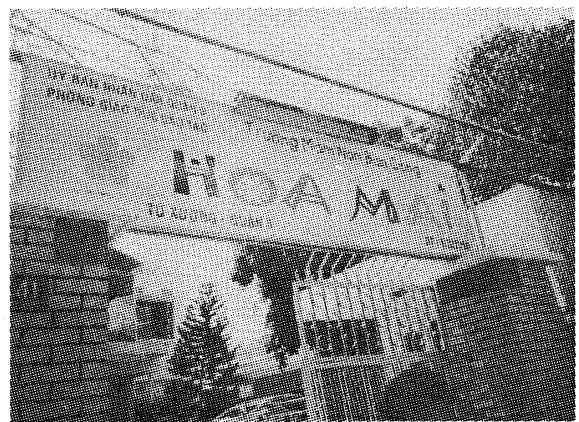
そのため、巷にはあらゆる種類の専門学校が存在し、特に語学教育に通う人々は多い。語学が堪能であることは収入増にもつながり、大人だけでなく、幼稚園児や小学生にも英語を学ばせようとする親は多い。小学校での英語教育導入の歴史は長く、アメリカ統治にさかのぼる。英語の話せる教員は多く、子どもたちに対しての指導は満足いく内容であり、話せる英語教育が行われている。

資料 2 The chart of the Education

(2)



Ⅲ、ホア・マイ幼稚園の概要 (2002 年)



(写真 A)

「ホア・マイ」幼稚園は 0 歳から 6 歳までの子どもを預かっていて、Senior Kindergarten (3~5 歳) では熱心に教育が行われているが、Kindergarten (0~36 ヶ月) 部門は子どもを預かることが基本で教育はほとんど行われていない。

職員は午前 6 時半くらいから出勤で夕方 7 時くらいまで働くのが一般的である。1 ヶ月の幼稚園教諭の給料は日本円にして平均約 1 万円との事である。ホーチミン市街から少し離

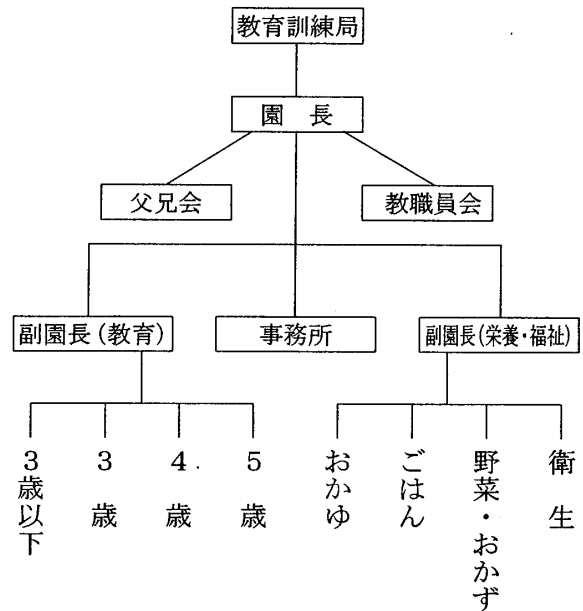
れると 8000 円くらいまで下がるということである。この 2 年ぐらい物価の上昇が著しく現在はこれより上がっていると思われる。Senior Kindergarten といわれる部門は小学校に入学する前なので、特に 5 歳児に対しては非常に熱心に教育を行う。これについては次の章の保育内容で述べる。

資料3 概要

- (1) 創立 1975 年
- (2) 職員数 56 人
  - 園長
  - 主任 (副園長)
  - 栄養士 (副園長)
  - 幼稚園教諭
  - 調理師
  - 用務員
- (3) 園児数 518 人
  - 3～36ヵ月 183 人
  - 3 歳 134 人
  - 4 歳 92 人
  - 5 歳 109 人
- (4) 1 クラスあたりの園児数 教員数
 

1 歳	5 人	4 人
2 歳	35 人	4 人
3 歳	35 人	3 人
4 歳	35 人	2 人
5 歳	35 人	2 人
- (5) 保育料 (1ヵ月) 1 ドル = 120 円
  - 1～4 歳 400,000VND  
(日本円 約 4800 円)
  - 5 歳 450,000VND  
(日本円 約 5400 円)
- (6) 食費
  - 1～3 歳 100,000VND  
(日本円 1200 円)
  - 4～5 歳 250,000VND  
(日本円 3000 円)

資料4 職員組織



資料4には幼稚園内の園長室に掲げられているベトナム政府から支給された表であるがホーチミン市内の公立幼稚園は他に3園見学する機会を得られ、これはどこにも掲示されていた。

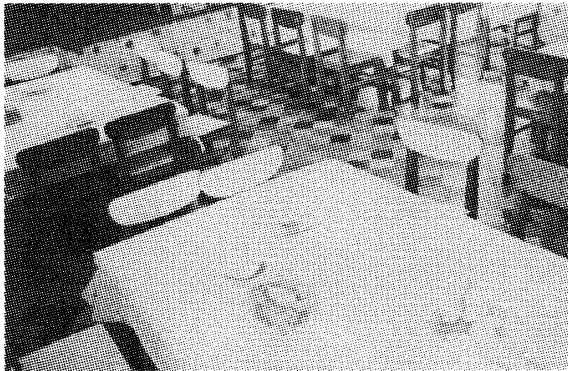
公立幼稚園園長はベトナム教育訓練局から任命され、それと同等の位置に父兄会、教職員会が置かれる。園長はホーチミン市内にある幼稚園教諭専門の養成校である短大(3年)か大学出身者に限られ、卒業と同時にほとんどが園長就任である。最近では現場の教諭出身者もいるようである。幼稚園教諭は高校卒か専門学校卒(2年)、専門の短大・大学出身に限られていて、高校卒業後何年かの研修を得て正式の教諭になる例もある。訪問した他の2園のうちの1園は後者の例で政府の奨学金を受けて短大に再入学し、園長に就任した。2004年夏で38歳であった。

ホア・マイ幼稚園の園長は開園以来の園長である。これはエリートは就職すればすぐ管理職という日本の前近代的な時代のように、親に対して、教員に対して、地域に対してかなりの権限が認められている。

教職員組合の中には教員の不祥事・表彰の部門も含まれ、教職員の士気を高めるのに役

立っている。園長は政府直属の役人であり、思想的な部分も多く関わっているようである。表彰されるのは園長の推薦が強く影響する。

また、どの公立幼稚園にも副園長は教育部と栄養・福祉部にそれぞれ 1 人ずつ配属されているが、栄養いわゆる食事だけに一人の副園長が配属されていることは日本との大きな相違点である。



(写真B)

一般的にベトナムの食事はおいしいと言われるが、食生活に重点を置く考え方が大きく影響を与えていると考えられる。この考え方は教室の使用にも現れ、授業を受ける部屋と食事をする部屋、すなわち食堂的な部屋が別に用意されていることも珍しいことではなかった。食事のテーブルセッティングも美しく整えられ、フランス植民地時代の良き部分が受け継がれていることに驚きを感じるとともに、食生活に重きを置く姿勢が幼稚園時代から育まれている。

ホア・マイ幼稚園は比較的豊かな家庭の子どもが多いのが特徴であるが、衛生面は、戸外に手洗いのような場所は少なく、それは飲み水には適さない。2003 年の S A R S 以来、各教室の外にステンレス製の入れ物が置かれ、中には滅菌消毒されたお手拭が入れられている。子どもたちは外での遊びから教室に入室する際に手を拭き、使用した後は別の容器に入れる。清潔なお手拭が無くなれば、用務員が新しいものに取り替えていた。他の幼稚園では、ここまでの準備はされていなかった。園庭の手洗い場で手を洗って教室に入る。子

もたちが喉の渇き我慢できなくなって園庭の水を飲まないように、各フロアに飲み水用の大きな容器が設置されている。



(写真C)

S A R S はホーチミン市では、発祥していないが、対策は徐々に取られている。衛生面の設備はかなりお粗末な幼稚園も多く、今後子ども達に病気の例が見られれば、対策は取られるであろう。既に観光客が大勢訪れる観光地では毎日夜に清掃が行われている。この 2 年あまりの進歩は著しく、このような考え方がホーチミン市内全体の幼稚園児に及ぶのには時間がかかるであろう。

養成校の幼稚園実習は 2 ヶ月間行われる。また、1 年に何回かの幼稚園教諭研修があり、教諭の資質向上に努めている。ホーチミン市内のほとんどの公立幼稚園では実習生を受け入れている。現段階ではここまでしか調査できていない。

#### IV、ホア・マイ幼稚園の 1 日

ホーチミンはベトナムの南に位置しているために、気候は年中暑い。しかし、それよりずっと北に位置するハノイより過ごしやすいと一般的に言われる。1 年中、雨季を除き日本の夏の気候であるため早朝のうちに仕事を始め、夕方は早めに終えるという生活スタイルを取っている。幼稚園の 1 日の日課は 7 時から開始され、夕方 5 時に 1 日を終える。

3 6 ヶ月までの子どもたちは写真 D のように遊び中心の育児で、歌と絵本読みが多い。写真 C の床はタイル張り、一般的にベトナム

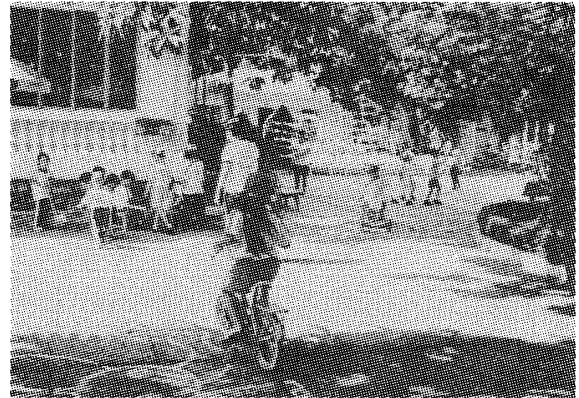
の家の床・教室の床はほとんどがタイル製であり、教室の大きいテーブルはブリキ製等も見られる。肌が触れたときにひやりと気持ち良く感じる素材で出来ている。

資料5は3歳児以上の年齢の子どもたちの日課表である。この中で7時25分から35分まで10分間行われる「肥満児体操」はあまり他国では見られないカリキュラムである。ベトナムというと体の細い人々、ましてや子どもが肥満ということに驚きを覚えるが、肥満は、いまやベトナムでも社会問題になりつつある。肥満が幼児に悪影響を与えるという事は幼稚園教諭には理解されているが、親側に理解されているとは言いがたい。生活が豊かになり、食事がおいしいとなれば大人だけでなく、子どもたちにも当たりまえに起きてくる現象である。

さらにホーチミンのどこの幼稚園を見ても園庭が非常に狭い。あるいは、全く園庭が見当たらない幼稚園もある。特に最近設立された私立幼稚園にはこの傾向が強いように思われる。これは調査した結果に基づいてはいないが、これについて、「ホーチミン市の幼稚園の大半は子どもが自由に遊べるだけの園庭を確保しておらず、保育活動の中心が室内活動に制限されているため、体を使つての活動が非常に少ない。」<sup>(2)</sup>と上野も述べている。

資料5 日課表

THOI	NOI DUNG	時間・日程
7:00-7:15	Don tre	登園
7:15-7:25	Tap TD sang	体操
7:25-7:35	Van dong cac chau beo phi	肥満児体操
7:35-8:00	An sang	朝食
8:00-9:15	Hoc Z tiet	勉強
9:15-9:30	Van dong beo phi	肥満児体操
9:30-10:30	Hoat dong VC	遊び
10:30-10:45	Choi tu do-Ve sinh	自由遊び
10:45-11:30	An trua	昼食
11:30-14:15	Ngu trua	お昼休み
14:15-15:00	Ve sinh An xe An chieu	遊び
15:00-15:30		おやつ・遊び
15:30-16:00	Ve sinh Choi tu do	自由遊び
16:00-17:00	Tra tre	帰宅



(写真 D)

園庭が狭い原因、さらに考えられる肥満児が増加する原因として次の3つが考えられる。

- ① ホーチミン市内は全体に住宅が密集していて、土地の値段も高いため、広い園庭は確保しにくい
- ② バイク等、交通量も我々日本人が考えられる範囲を超えているほど多いため、園に近い場所に土地を確保したり、子どもたちを園外に連れ出すことも難しい。
- ③ 生活が豊かになり、親が子どもに対して好きな食べ物を好きなだけ与える。
- ④ 一般的にベトナム人自身が運動の必要性をあまり感じていない。常にバイクに乗り、家の中までバイクで入っていく国民性である。

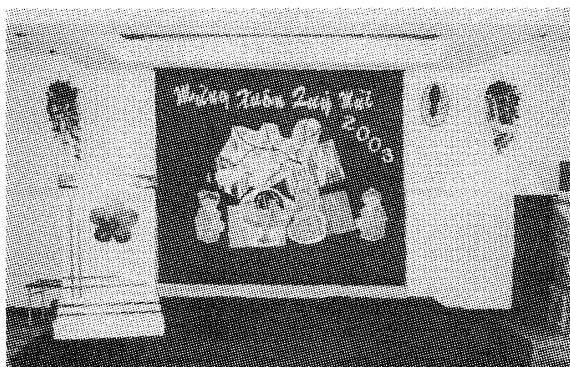
## V、保育内容

教育部は、3歳以下は保育中心に考えられ、3～5歳までの子どもたちに対して、親の強い希望に答えるかたちで、早期教育に力を入れている。その筆頭は算数・読み書き、英語であり、音楽・美術・体育が続く。ベトナムの経済発展には目を見張るものがあり、日本の東京オリンピック前の経済成長を見る思いがする。子を持つ若い富裕層が期待する幼児教育は早期教育であり、子どもへの将来の期待度は大きい。

① 音楽・体育・美術



(写真E)



(写真F)

各教室にオルガンとかピアノなどの楽器は見当らなかつた。遊戯室のような園児全員が一度に集合できる場所には園児全員のためのピアノが1台、園児の練習用に簡易オルガン10台、テレビとビデオがそれぞれ1台設置されている。(写真E)

個人の器楽演奏に関しては、ベトナムの園児は日本の園児のように一人一人がピアノのような楽器を持っているわけではないので、全体の中で選ばれた園児が遊戯室で練習する機会を与えられる。これは日本でも楽器が貴重な時代には良く見られた光景である。ベトナムで見た器楽楽器はほとんどが日本製で1台を購入することはかなりの予算を費やすことになる。

この遊戯室(写真E・F)は、普通のサラリーマンの所得が1ヵ月平均2～3万円の割合から考えると国が幼稚園にかける費用の膨大さが窺える光景である。

この部屋では体育も行われるため、ビデオはそのためにも使用される。ホーチミンでは体育の授業の中で園児にエアロビクスを取り入れている。肥満児体操もこれに類する内容だと考えられる。日本での音楽に合わせて行なう体操だと考えていただいたほうが理解しやすい。これはホーチミン市内での幼稚園対抗地区大会があり、順位を決定するそうであるが、去年この「ホア・マイ」幼稚園は1位であった。

前章で述べたようにホーチミンのどこの幼稚園でも園庭は狭い。そして、園庭の遊具は他の幼稚園と比較しても非常に多く備え付けられている。プールは小さめではあるが設置され、他の幼稚園で目にする事はなかった。ブランコ・水遊び場・小農園・ウサギや鳥などの小動物園も飼われている。

全園児数が518名という数から考えてみても園庭は狭い。遊戯室は他のほぼ同数の園児数の幼稚園と比較すれば大きいほうであるが、人数から考えれば狭い。幼児教育に必要な遊具類に関する関心は高く、国の予算で購入しているが、園庭で行われる運動量と子ども健康という面ではまだまだこれからである。

② 算数・文章指導・英語

算数教育は日本とほとんど同じかそれ以上である。算数は数指導から始まって、小学校入学までには簡単な足し算・引き算は行なえるように指導する。日本の幼稚園では足し算・引き算は指導しないのが一般的である。この話を幼稚園教諭にしたときは、不思議な顔をされた。それならなぜ日本人は算数が得意なのかという疑問を持つようである。日本の算数教育は憧れの対象で、日本の幼児用算数教材は是非参考にしたいという強い希望を持っている。

文章指導は文字指導に始まって簡単な文章が書けるようにする。その他には、暗唱した詩を皆の前で言えるように、4歳ぐらいから行うようである。かなり長い文章も暗唱する。元々が中国文化を継承しているので孟子、孔子の部類の詩のようである。

英語教育は小学校でかなり力を入れて指導をするが、幼稚園では導入程度に抑えている。一般的に、発展途上国では良く見られる、母国語以外に話せる言語を持つ事は将来の生活安定に繋がってくることになるために、親は一生懸命に子どもに第二言語を学ばせるのである。そのため、家庭によっては塾のようなところに通わせている親も多い。

幼稚園に子どもを預ける家庭の中の教育費の割合であるが、夫婦2人の収入の2～3割までなら許容範囲と考える親が多い。これは中国や韓国でも見られる傾向であるが、子どもの教育費は惜しみなく使い、将来に期待するという意識の表れである。そのため多くの子どもは持たない、持てない状況が生まれてくる。中国の場合は国の政策で一人と決められているが、韓国やベトナムは自主的に一人か二人と決めている。

しかし、中国の「一人っ子政策」が生み出している新たな問題として、子どもを甘やかすという現象が起きてくる。「全托」幼稚園に預けることで、ある程度解消できるが、週末は却って甘くなってしまう親が多いようである。

また、ベトナムの最近の傾向として、両親共働きで、子どもが家に帰ってきてても面倒を見てくれる人が家にいない。そのため、家から外に出て行き、不良化するということである。それもかなり年齢の低い子どもが薬に手を出すというニュースが新聞の記事として取り上げられることもあるという。経済発展が急速に進むと必ず起きる社会現象がベトナムでも起きていて、将来増加する可能性がある。

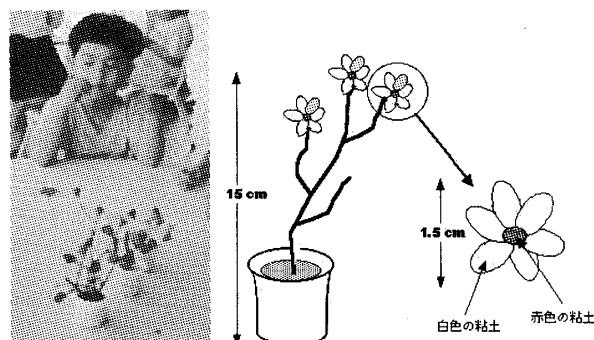
さらに、中国の「一人っ子」として育てられた子どもたちが、現在では家族との団欒や地域との結びつきを上手く結べなくなっているというような情報もある。

### ③ 幼児美術

美術に関しては、本来ベトナム人が伝統的に伝えられてきた内容を教えていて、ごく自然に子どもたちが取り組んでいる。特に素晴らしいのが、子どもたちの作り出す粘土細工

と絵である。子どもたちの制作風景を見学したのは、木の枝と粘土を使って作り出す花に取り組む姿であった。普通の細い木の枝を多く用意し、その先端に粘土で花びらとおしべ・めしべに当たる中心を「爪楊枝」を使って入れ、本物のように見える花の付いた枝を作り出すのである。非常に手先の器用さが要求される作品が出来上がっていた。「爪楊枝」はかなりの数が机の上に用意されていて園児たちはそれを使って器用に細かい作業に精を出していた。「爪楊枝」を使うことに対する安全性に対する問題は無いのかという疑問があるが、尋ねてみると全くそのようなことは考えていないということであった。ナイフの使用に対しても同じ答えが返ってきた。

絵画に対して全くの門外漢である私は、単なる印象を述べるだけにとどまるが、訪問中に壁面に飾られた子どもの「絵」と工作を組み合わせた作品の色やその組み合わせの素晴らしさに眼を奪われた。色の鮮やかさは気温の高い国で見られる原色の明るさのみならず、その配色の良さに驚かされた。また、園児の一人が私にプレゼントしてくれた絵は、蛭、ボタン、粘土と描かれた絵の組み合わせが絶妙で、躍動感が感じられた。全体から受ける印象としては生き生きとした生命力と生活に密着した逞しさが感じられた。園児たちの描く風景画や絵の内容はバラエティーに富んでいるが、これは日常生活から多く生まれてくるものであって、子どもの生活環境が大きく絵画にも影響を与えている。毎日の生活が狭い部屋の中に限定されたり、毎日目に入ってくるのがテレビ画面の一部である場合には生み出されない絵の内容である。



(写真 G)

## VI、終わりに

ホーチミン市の人口は約 470 万人 (2000 年) で、その中の幼稚園児数は 128,809 人である。幼稚園に通える子どもは全体の中の割合としてまだ少なく、祖父母や隣人に預ける親も多い。ただ家族の中で一緒に育ち、全く小学校に行けない子どももわずかであるがいる。子どもが 3 歳に満たない場合は幼稚園に預けないで、賃金が安いために、雇った子守りに面倒を見てもらう夫婦もいる。しかし、無理をしても幼稚園に通わせたいと考える親は年々増加し、あるホーチミン市郊外の私立幼稚園は開設当初、3 歳、4 歳、5 歳の 3 組、22 名、教員 3 名だけでスタートした。それが 5 ヶ月後は 65 名になり、6 年後 (2003 年) では教員 17 名、園児数 260 人に膨れ上がった。この幼稚園は商店街に位置し、働く母親が多い。親にとって、幼稚園はただ単に子どもを預けて面倒を見てもらう場所ではなく、家庭ではできない教育が受けられるという期待感を持たせる場所である。幼稚園もそれに期待するべく努力している。

今後、数多く設立される幼稚園は、保育設備、保育内容に関してはまだまだ子どものことをよく考えた内容とはいいい難いところも出てくる可能性がある。

また、幼稚園教諭の待遇も一部の公立幼稚園を除いては、必ずしも恵まれているとはいいがたい。教科教諭と保育専門の教諭では明らかに待遇が違う。今後、これらの問題点を再考しながら、ますますの経済発展とともに教育訓練局の充実も望みたい。

## 注

- (1) 長谷部和子『ホーチミン市 (ベトナム) の子ども施設に見る知育教育』pp42-43 全国保育士養成協議会第 42 回研究論文発表集
- (2) 上野恭裕『ベトナム社会主義共和国の保育実態と今後の課題に関する一考察』日本保育学会 p235, 2003

## 参考文献

ベトナム外務省資料 (2000 年・2002 年)